



コルネリオ会

(キリスト者自衛隊員の会)

ニュースレター №30

1981年1月

* 主にある一致

国際OCUの標語に「主にあつて一致」というのがある。これはどういふことであろうか。先づ主にあるということについて考えてみたい。我々クリスチャンは救われているかぎり罪からの許しの中にあるわけだから、その時神と交りを持つことが出来る。たとえ我々は罪を犯しやすい弱い者であるとしても、神との交りの中にある時には罪から離れた救いの状態の中にあるのだから、我々はそれぞれ異なる環境にあり異なる国籍に属しているとしても真理によって導びかれるからには一致することが出来るわけである。我々が主にある時聖霊が我々に臨み導びいて下さるわけだが、その聖霊は我々に次の3つを通して働られる。即ち第1は自然を通してであり、第2は聖書の啓示を通してであり、第3には我々クリスチャン同志の交りを通してであろう。自然については、もろもろの天は神の栄光をあらわし(詩19:1)とあるように、人間はその自然の中で顔に汗して働らく事によって生活が出来るように運命づけられており(創3:19)、その努力を通して主は恵みを与えて下さる。その成果が文明であり、自然科学であり、人文科学である。これらは我々人間がこの目で確かめられる祝福である。この地上の祝福だけを甘受するだけならば、他の動物とあまり違わないが、人間には更にはるかに秀れた祝福が与えられている。それは言わば超唯物的な恵みで、それは自然界にくらべてはるかに広大な分野であろう。

例えばこの自然を3次元の世界とすれば、この神に属する分野はn次元であろう。そしてこのnの値はかなり大きい数であり、あるいは無限大かも知れない。

だから我々人間はこの3次元の知識によって無限大次元の事を推測する事は極めて困難である。いわゆる外挿法を用いて推測するならば恐らく見当違いの結論を得る結果となるであろう。神はこの無限大次元の事柄のうち、現在人間に必要な部分を選民を通して啓示された。それが聖書であろう。

我々は3次元の知識からこの聖書のみ言葉を導びき出すことは出来ないが、この無限大次元の聖書のみ言葉を3次元の知識によって理解することは出来る。何となればこの3次元は無限大次元のうちなのだから。只問題なのは、その3次元の知識がゆがんでいてはいけないという事で、純粹でなければいけないので、即ち罪の介在しない知識でなくてはならない。聖書のみ言葉は悔い改めた罪あがなわれたクリスチャンには理解が可能だということである。

我々は救われて罪許されたと言っても、依然として肉体を持ち、人間の歩むべき本来の真理の姿からは遠い。この世の中につかわされて生きているので、人生の間には種々の問題に出会い、或いは迷いつまづく。これに対し主イエスは、お互に足を洗い合いなさい(ヨハネ13:14)と言っておられる。ここに聖徒の交りの重要性がわかる。始めに主はペテロを通して岩の上に主の教会を建てると言われた。それから約2千年、我々はなおその交りの流れの中にあづかっているものであり、福音も伝道もそれら聖徒の口を通して述べられているわけである。

これら3つの媒介によって我々は神のみ心を知り、導びきを受けているので、我々の側からはこれに対してどう応答すればよいのであろうか。

我々はこの世にあって生活しているので、たとえ主の導びきがなくても何もしないでいる事は出来ない。閑居すればサタンのねらうところとなる。主は我々に向って喜びの福音を世界のすみまで宣べ伝える事を命じておら

れる(マタイ28:19)。勿論聖書はこれだけを言っているのではないが、聖書がさし示す行動一つ一つはせんじつめればこの目標に向っていることに他ならない。ただ主は人間が考えるように短兵急な行動のみを命じておられるのではないので、人間の進むべき道は八方に通じているように思われ、一寸見ると逆方向に向いているように見えるものもある。自衛官の職も場合によってはこのように見えるかも知れない。しかし自衛官の職も主によって定められた権威の中にある事(ロマ13:1)を思えば、主に従っている点については直接伝道に当る職と変る所はないはずである。主より与えられた職務に対して、主のみ旨に従うべく祈りの中に行動する事こそが重要である。特に自衛隊の本領を発揮するのは緊急の場合である事を思えば、人心が動揺している緊急の場合にこそ世の光としての役目が必要であり、キリスト者自衛官の存在は余人をもって換える事が出来ない。

このような緊急の場合にこそ誠の正義が行なわれなければならないし、そのため平時からの用意をしなければならぬ。この意味で緊急時に適応する聖書研究が必要である。

今や世界には平和を望む声が高く、夫々の国でそのための研究に着手している。しかし地上の知識によって良しとする方策も、夫々の国状が異なれば互に衝突する。

これらを調整し得るものは普遍的な真理であり、これは聖徒の交りを通して正しい考え方が行なわれる以外に方法は無いであろう。この意味で国際OCUのメンバーの交りが貢献することが待望される。

* " Know your Bible " (第14回)

著者 W.C.Scroggie

訳者 宮崎健男(金沢フィラデルフィヤ教会牧師)

ヨハネによる福音書

鍵の言葉：神性。「あなたの神を見よ」

エペソにて記される。教会のために書かれる。わしのような局面。知恵

の福音。

年代 紀元後90～100年

著者

100年以上も前から、第4番目の福音の著者をめぐって議論が起り、今日まで続いているが、ヨハネの著者であることを疑わせるような、全ての学者の論議や、推理にも拘らず、ゴードット・ウェストコット、ライトフット、サンディやその他の人々が指摘して来たように、諸事実が、その著者は、主の愛しておられた弟子、使徒ヨハネであったことを示している。彼は福音物語の光景の中に最初に現われた人物の1人であり、又それから去った最後の人物でもある。彼の使徒としての生活は初代のクリスチャンの世紀の約70年にも及んでいる。

イエスの従兄、彼はカペナウムで育ったようだが晩年はエペソで過した。

読者

パウロは、「ユダヤ人にも、異邦人たちにも、神の教会にも」(Iコリント10:32)と語っているが極めて的確な分析である。

マタイはユダヤ人のために書き、マルコとルカは、異邦人の代表的2大民族、ローマ人とギリシャ人のために書いた。そしてクリスチャンの教会はユダヤ人と異邦人の中から召されたものであり、その教会のために、この第4番目の福音は書かれたのである。このことは部分的には年代により証明され、又内容もそのことを物語っている。

著作の場所

信頼すべき伝承によれば、ヨハネは、晩年をエペソですごしたが、この福音書が、パトモス島への流刑以前か、又は流刑後に、エペソで書かれたことは、ほぼ確実である。

年 代

福音書自体が提供する証拠より、記述年代は遅いと言える。共観福音書と第4福音書との相違点は、全てに亘って明らかであり、後者の前者に対する進歩は、教会の思想の進歩として自然に説明できるのである。その思想は時代の経移と共に理解が深まったからに外ならない。この福音書中にある題材の選択は、間違いなく、記された時代の影響を受けている。この書には、共観福音書に属していない成熟が見られるが、それは共観福音書の時代からほぼ30年経過していることによって説明される。

文 体

ヨハネの文体は3つの共観福音書とは、大いに異っている。言語はギリシャ語であるが文体はヘブライ的である。ヨハネは、どの共観福音書よりも少ない単語を用いているが、それらを大きな目的のために用いている。彼の本質的な思想や、概念は多くないが、彼はこれらを絶妙な印象深さをもって、繰り返しているのである。順序は年代別ではないが、著者の目的によって定められている。福音書は本質的に、哲学的、神学的、神秘的又霊的であるが、かと言って歴史的に信頼出来ないとは言えないのである。

特 色

ヨハネ伝の主題は、その序文(1章1節~18節)の中に明らかに概説されている。丁度彼の動機がその結語(20章31節、21章は附録)の中に明確に述べられている様である。後者より、我々はこの福音書が、イエスが神であることを示すために書かれたのであり、それによって読者の中に信仰を興させ、彼らに永遠の命を分与する狙いをもっていることを学ぶのである。この目的が、この記録を顕著に支配しているので、ゴードットはそれを、序文の3つの部分(1章1~5、6~11、12~18節)に応答する3つの部分に区分している。即ち、受肉した言葉(1~4章)、ユダヤ人の不信仰(5~12章)、クリスチャンの信仰(13~17章)、

そして、それは不信仰（18～19章）と、信仰（20章）の頂点へと発展したのであった。

ヨハネによる福音書は、イエスが神の御子であったことを示すために書かれている。

彼の第1書簡は、神の御子をイエスとして述べるために記されている。又彼の黙示録は神の御子、イエス・キリストの力と栄光を展開するためである。これら3つの書物以上に深遠であり、荘厳であり、畏敬の念を起させ慰めを与えるものはない。（次回に続く）

* コルネリオ会と私（その1）

松山暁賢（八戸会計隊）

私がコルネリオに出逢って今年で15年になる。貧しいクリスチャンですが主にあつて、コルネリオの友に励まされ、また私もコルネリオの友を求めて歩んできた。今では、いつもコルネリオを誇り、百卒長コルネリオを範として、隊務に、信仰生活に励んでいる。そこで、この15年間の私の思出を、コルネリオ会の一断面としてご紹介させていただきたいと思う。

1. コルネリオとの出逢い

40年3月、久留米の陸自幹部候補生学校を卒業し最初の任地が札幌であった。当時、真駒内団地が造成中であり教会としては、真新しいモダンな建物の真駒内伝道所が出来て間もないときであった。札幌地区病院長の武田先生が教会役員としてご活躍されていたのはこの伝道所であるが、札幌には、北光教会、札幌教会をはじめ数多くの教会があつたので、何故、この伝道所に行ったのか、今でも解らない。部隊が真駒内だったからかもしれないが……、これも神の御導きによるものと感謝している。

2. コルネリオの友

コルネリオ会については、武田先生から紹介された。当時OCUと称していたが、その由来を、使徒行伝第10章の百卒長コルネリオの説明

から始められた。

(1) OCU聖書研究会

聖書研究会は武田先生を中心に毎月1回行なわれ、小冊子ながら立派なテキストを使用した。当時よく出席された顔は、小森兄（現 伊丹会計監査隊）、三上兄（現 札幌会計隊本部）、越田兄（現 島松方面武器隊）、大貫兄（現 秋田業務隊）、高橋兄（現 船岡施設団）、中村姉（当時 札幌病院）等がおられた。

そのころ、OCUは自衛隊にはなじまないという意見が多く、札幌では、コルネリオ会と呼んでいた。

(2) 小平教会

翌年の41年1月、東京小平市の陸自業務学校に入校することとなった。この学校正門の前に、小平教会（当時 石岡記念教会）があった。ここには今井先生（現 防大教授）が教会役員としておられ、独身の私は、聖日礼拝、祈禱会に毎週出席することができ、よくご指導をいただいた。小平教会には、45年と49年に入校の機会があり、非常に懐かしい教会の1つとなっている。

(3) さい果ての地「別海」

業務学校を卒業して間もなく道東の大湿原でクナシリに近い別海村に赴任した。ここには教会は1ヶ所、村役場所在地の西別というところにメノナイト教会があったが部隊から30Km以上あり、バスも1日1往復しかないと、2年半の在隊内1回しか行かなかった。申し遅れたがこの村は、香川県ぐらいの面積を有する、日本一広い村で、当時、国鉄の駅が7つあった。

ここでよくお世話になった教会は、中標津町のメノナイト教会であった。30才ぐらいの河野先生とは教会外においてもよく摩周湖等の名勝巡りを共にした。特に印象に残っているのは、先生の赤ちゃんの名前を「ユニケ」としたことであった。これは第2テモテ1章5節からとったものであるが、そのユニケちゃんも今は中学生になっている

ことであろう。その他の教会としては、弟子屈町、標茶町、釧路市にある、ナザレン、メノナイト、バプテストそれに釧路の教団の各教会に出席した。コルネリオの友から離れた生活の中で、丁度、旭川勤務の矢田部兄が別海に出張で来られ、僅かな時間であったが、同兄に初めてお会いすることができた。これは、私の信仰への強い励ましであった。(次号へ続く)

*** 総会および日米合同集会報告**

1980年10月25日(土)、東京市ケ谷ルーテルセンターに於て、本年度の総会および日米合同の集会が開催された。午前中総会が行なわれ、つぎの件が議決された。

1. 会則一部変更(各誉会長の件)
2. 役員を選出
3. OCU世界大会参加報告の承認
4. 名誉会長推薦

以上についてつぎの諸兄が選ばれた。

名 誉 会 長	吉江誠一兄(初代会長 元陸将元陸幕長)
名 誉 会 長	武田貴美兄(前会長 元陸将)
会 長	今井健次兄(防大)
執 事(幹事)	矢田部稔兄(陸幹校)
執 事(書記)	滝原 博兄(空幕)
執 事(会計)	塩月安郎兄(調本)
執 事(広報)	今井健次兄(防大)
執 事(渉外)	堀内侯槌兄(陸調校)

なお報告事項はつぎのとおり。

1. 18年間会長として奉仕下さった武田前会長に対し感謝状を贈呈
2. 9月来日した英艦隊乗組の英OCUクライヤー少佐を歓迎
3. 来年8月のアジア地区OCU大会(シンガポール)

に多数の会員が参加するよう呼びかけ。

午前に引続き午後日米合同の研修会が実施された。今回は丁度ビリグラハム東京国際大会の開催時期であったので、同伝道チームのT.W.Wilson師を迎えてメッセージをして頂くことが出来た。又夕食をかこんで、各会員の自己紹介やあかしを通して祝福のうちに交りの時を持ち、終ってから一同後楽園球場で行なわれるビリグラハム東京国際大会第4日目に出席することが出来た。

本日は朝から総会、日米合同研修会、ビリグラハム大会と忙がしく、本当の意味でのJOINT MEETINGとなった。主のお導びきに感謝を捧げたい。

出席者

＜日本側＞ 鈴木崇巨師（田浦教会牧師）、吉江誠一兄（元陸将）、武田貴美兄夫妻（元陸将）、足立順二郎兄（元海将補）、寿円正巳兄夫妻（元空将補）、清水善次兄夫妻（元一海佐）、武官啓夫兄（元空）、藤原正明兄夫妻（元1陸佐）、溝口裕兄（防医大）、今井健次兄夫妻（防大）、矢田部稔兄（陸幹校）、森田忠信兄（空幕）、堀内候槌兄（陸調校）、滝原博兄（空幕）、武内哲史兄（海幕）、志賀正吾兄（陸幹校）、藤原道明兄夫妻（陸幕） 23名

＜米国側＞ Albert Zabet 中佐夫妻、Joe Meeko 中佐夫妻、William Lumpkin 中佐夫妻、Gatlin Sandra 中尉、N.Z.Smith 兄、William E. Zinnel 中尉、Bradley Touranglau 中尉、（以上横田基地）

T.W.Wilson 師（ビリグラハムチーム）、Maddox 夫妻（ホテルニューオータニ伝道師） 13名

* 寄 信

- 東京キリスト教学園、共立キリスト教研究所主事、宇田進先生から「コルネリオ会の皆様」に宛ててつぎのお便りが参りました。感謝

「領主、主の証詞にお励みのことと存じます。コルネリオ会のニューズレターいつも御送り下さいますこと感謝です。研究所において読んでもらっています。尊い御働きがこれからもますます祝せられますように。小生関係しております学校の学園報同封させていただきます。主にあつて。」

- 英国OCU顧問B.Godfrey Buxton 師からつぎのような内容のお便りが参りました。感謝（師は日本伝道の創始者Barkley F Buxton 宣教師の四男 原文別添）

「1980年OCU国際大会特集号のレポートをはるばる英国まで送って下さって有難う。これは大へん驚異的な出来です。これによって外国に出掛ける事の意義を知ることが出来るし、同時にこの大会で我々が得たと同様な真実をこのレポートは伝えています。私はこれを大切に何度も読み返そうと思っています。

武田陸将や吉江陸将のレポートも私には喜びです。彼等のあかしが我々に神に対する新らしい感謝の念を起させた事を伝えてほしい。

この冬に向って日本のコルネリオ会の上に恵みが豊かであるよう祈ります。特に重要且つ困難な位置にあつて重大な責任を達成するために、神は十分な聖霊の満たしを与えて下さると思います。貴重なレポート有難う。私は日本の松江で生れた事を喜びとしています。

私の愛をすべての日本の皆様に！ 喜びをもって。」

* 短 信

- 大橋忠造兄（東北方）

当地は再度の勤務、旧知の人もおり特に仙台YMCAの副総主事、宮城学院高校長（外記丁教会牧師）が学Yの後輩であることもあり、その面での交際が多く張切って過ごしております。

- 滝口巖太郎兄（空気象本部）

統合気象中枢の気象通信電算機の換装準備の作業中です。鶴川福音教会の会堂建設の準備中、1,700万円の建設費中200万円がすでに確保され近く契約する予定です。お祈り下さい。

○ 米浜弘明兄（富士校）

7月にはレンジャー班より庶務班長へと変り、前にも増して忙しい日々を送っております。暇をみては家族共々御殿場教会に出向いております。10月25日には御盛会を心より祈念致しております。

○ 下桑谷浩兄（中央病院）

今回はピリーグラハム東京大会協力教会の推進係として、又カウンセラー主任など多くの責任を持たされ東奔西走の毎日です。コルネリオ会のご発展を心からお祈り致します。

○ 小森邦治兄（中方装備部）

英国における世界大会にご参加の由、神様はますますお用いになり感謝に耐えません。過日御案内を頂きました「軍人伝道に関する研究」を求め、一部を教職者に贈呈してOCUのPRにつとめております。

○ 山口利勝兄（松島救難隊）

松島へ赴任以来1年3ヶ月余、家族そろって夕食を共にするのは、ほとんど週末のみという思いのほかの多忙な生活をしております。従って親子での聖書の輪読もなかなか頁が進まないでおります。一人前に聖書を読めるようになった子供達の姿を見ては、月日の流れの早さを感じると共に、常に主が導いておられる事を覚え深く感謝している今日此頃です。

○ 三上賢一兄（北方会計隊）

聖名を讃美します。昨年はお逢いできず残念でしたが次の機会を楽しみにしています。真駒内教会も先日16周年創立記念を迎え成長期です。武田先生はじめ皆様によろしくお伝え下さい。

○ 越田久一兄（北方武器隊）

6月～12月、武器科後期新隊員教育中であり、教官不足のため休暇等も思うにまかせぬ状態です。会の盛会を祈念申し上げます。

○ 黒田正子姉（旧姓安藤）（立川1補）

54年に結婚致しました。よろしくお願ひします。

コルネリオ会事務局

（日本OCU）

横須賀市走水一丁目 防衛大学校

応物教室 今井教授 気付

郵便振替 東京 3-87577